資　料　８

平成２１年度北九州事業
視　察　報　告　書

北海道ＰＣＢ廃棄物処理事業監視円卓会議

平成２２年５月２４日

〈行程〉

平成２１年１１月１６日（月）　移動日

平成２１年１１月１７日（火）

９：１５～１２：３０　環境関連施設視察

・北九州市エコタウンセンター
（北九州市若松区向洋町１０－２０）

・西日本オートリサイクル株式会社
（北九州市若松区響町１丁目６２番）

・光和精鉱株式会社戸畑製造所
（処理施設:北九州市戸畑区大字中原４６－９３）

１４：００～１６：１５　北九州市ＰＣＢ処理監視委員会傍聴

平成２１年１１月１８日（水）

９：３０～１１：４０　日本環境安全事業株式会社北九州事業所視察
（北九州市若松区響１－６２－２４）

北九州市及び日本環境安全事業㈱北九州事業所との意見交換

〈参加者〉

北海道ＰＣＢ廃棄物処理事業監視円卓会議

委　員		西畑　常夫
委　員		西原　羊一
委　員		山形　公之
委　員		吉田　隆男
事務局	室蘭市経済部長	佐藤　　博
	〃　生活環境部リサイクル清掃課主査	池谷　佳久
	北海道環境生活部環境局循環型社会推進課主査	山岸　　睦

〈対応者〉

北九州市環境局環境経済部　柴田 俊雄ＰＣＢ処理・環境技術開発担当課長

〃　環境産業政策室　肥塚 秀夫ＰＣＢ処理担当係長

〃　〃　小石 典隆氏

日本環境安全事業株式会社北九州事業所　千葉 高生所長、田野 洋総務課長

〃　本社事業部　尾川　毅次長

〃　北海道事業所　吉本 範男所長、田畑 寿幸総務課長

西日本オートリサイクル株式会社　上尾田 浩文生産課長・技術室課長

光和精鉱株式会社営業部　樋口 政美部長

〈視察概要〉

1　北九州市ＰＣＢ処理監視委員会傍聴（１１月１７日（火）14:00～16:15 ）
　日本環境安全事業㈱北九州事業所において開催された「第２３回北九州市ＰＣＢ廃棄物処理監視委員会」を傍聴しました。

○　会議次第
1　第２期処理施設プラズマ溶融分解設備活性炭吸着塔の火災について
2　第２期処理施設ボイラー室におけるボイラー給水タンクのオーバーフローについて
3　北九州ＰＣＢ廃棄物処理施設の操業状況について
4　その他

○日本環境安全事業㈱が行うＰＣＢ廃棄物処理事業を監視する組織

事業名	北九州事業	北海道事業
組織の名称	北九州市ＰＣＢ処理監視委員会	北海道ＰＣＢ廃棄物処理事業監視円卓会議
設置年月日	平成１３年１１月１４日	平成１７年７月５日
構成等	・委員１２名 ①学識経験者　５名 ②市民代表（団体推薦）　２名 ③市民代表（公募選出）　５名 ・顧問　４名 〔委員会出席者〕 ・日本環境安全事業株式会社 ・関係行政機関（環境省、労働基準監督署、海上保安部、福岡県）	・委員１５名 ①学識経験者　３名 ②団体からの推薦者　７名 ③公募委員　５名 〔会議出席者〕 ・日本環境安全事業株式会社 ・関係行政機関（環境省、近隣２市）
監視事項	・処理方式及び処理施設の設計に関する事項 ・処理施設の施工計画及び工事の進捗状況に関する事項 ・処理施設の操業に関する事項 ・処理施設に係る環境の調査に関する事項 ・収集及び運搬に関する事項 ・上記のほか、安全の確保及び生活環境の保全に関する事項	・処理施設の整備に関する事項 ・処理施設の操業に関する事項 ・収集運搬及び運行管理に関する事項 ・環境モニタリングに関する事項 ・情報公開に関する事項 ・上記のほか、安全の確保及び生活環境の保全に関する事項
開催状況	年３回程度	年４回程度
事 務 局	北九州市環境局環境経済部環境産業政策室	・北海道環境生活部環境局循環型社会推進課 ・室蘭市生活環境部環境課
ホームページ	http://www.city.kitakyushu.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=12336	http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/jss/recycle_2/pcb/entaku/entaku.htm

２　日本環境安全事業㈱北九州事業所視察（１１月１８日（水）9:30～11:40 ）
北九州市及び日本環境安全事業㈱北九州事業所との意見交換

プレゼンテーションルーム（２階）において、ＤＶＤ等により施設の概要や処理工程をご説明いただいた後、情報公開ルーム（１階）及び第２期施設を見学しました。
引き続き、北九州市及び日本環境安全事業㈱北九州事業所との意見交換を行いました。

・見学通路から、窓越しに処理工程を見学

・窓から見ることができない工程は、モニター映像を見ることができます。

・情報公開ルーム

・プレゼンテーションルームでの意見交換

〇意見交換の概要
〔日本環境安全事業㈱北九州事業所に対する質問等〕

項目	委員の質問等	日本環境安全事業㈱北九州事業所の回答
1 PCB 汚染物等の処理について	・設備の改善内容について ①　作業効率化を図る上で、設備の改善内容があればご紹介ください。 ・　受入基準について ②　蛍光灯安定器については、高濃度 PCB 入りのコンデンサを含むものと、低濃度（微量 PCB）に汚染されている可能性があるものとが存在しますが、処理を行うのは高濃度の安定器のみですか。	①　基本的に大きな改善はありません。 ②　ドラム缶に保管されているもの等は、銘板の確認は困難ですが、PCB 汚染物等に該当する蛍光灯安定器として保管事業者から持ち込まれたものについては、受け入れて処理しております。 　微量ＰＣＢに汚染されたものは処分対象としておりません。

項目	委員の質問等	日本環境安全事業㈱北九州事業所の回答
1 PCB 汚染物等の処理について	③　低濃度（微量 PCB）PCB 絶縁油によって汚染された廃棄物（ウェス等）も処理対象となりますか。	③　微量 PCB に汚染されたものについては、処分対象としておりません。それらについては、国において、民間の施設等での無害化処理の認定制度を活用した処理が検討されております。
2 PCB 汚染物等の収集運搬について	④　収集運搬管理について、天候・交通状況等による変更等でご苦労があると考えられます。改善・工夫等での事例がありましたらご紹介ください。	④　雨のときは積み込みできないので、搬入を中止しています。当日の朝に中止という場合もあります。広域処理ということで、エリア毎に天候が違い、調整が難しい面がありますが、運送業者との連携を密にして対応しております。
3 情報公開について	⑤　これまでの処理中の不具合で、情報公開した事例があればご紹介ください。	⑤　ホームページに掲載、または監視委員会で報告したトラブル等は８件です。
4 ISO 14001 について	・ 流出、漏洩対策について ⑥　ＰＣＢ廃棄物の保管、処理に当たっては、ヒューマンエラー等による流出・漏洩の危険がありますが、その場合の危険予知や流出・漏洩に対する対策について、ＩＳＯ１４００１で、どのようにシステム化されておりますか。 　また、その周知の徹底は、どのように行っておりますか。 ・重点ポイントの設定について ⑦ ＩＳＯ１４００１の運用に関し、重点ポイントを設定されていればご紹介ください。	⑥　ＩＳＯ１４００１に環境影響評価管理規定というものがあり、事業活動によって環境に影響を与えるか、又は与えると予測される環境側面を調査して、環境に著しい影響を与える側面を定義し、項目を特定して日常的に管理しています。この中には、誤操作による排出に係る項目や、ＰＣＢ等の排出に係る項目も当然入っており、また、作業員の資格の認定や教育・訓練についても、別の規程で定めております。 　ＩＳＯ１４００１自体に、各種の規程も含めて事業所内で周知徹底するよう定められておりますので、基本の所は全て周知徹底されていると考えております。 ⑦　重点ポイントはありませんが、あえて言うなら定められた環境マニュアルに基づいて、日々確実に業務を実施していくことが一番重要です。 　また、ＩＳＯ１４００１の認定を受けたからトラブルがなくなるということでは決してなく、トラブルを少なくし、重大事故を防ぐ一手段でしかありません。各種マニュアル、規程に基づいて、事務所全体がいかに日々努力するかということで、その努力の基準が定められていると考えております。

〔北九州市に対する質問等〕

委員の質問等	北九州市の回答
①　第２期処理施設も当然のことながら、当初計画に沿ったものと考えますが、監視委員会や市民の皆様方のご意見で特筆するものがあればお聞かせください。	①　北九州市の当初の受入条件として、第１期処理施設は北九州市のＰＣＢ廃棄物を概ね２年間で処理する能力の施設をつくり、そこで環境省が中間総括し、安全性が確認された時点で１７県分の処理に対応できる第２期処理施設を建設することとしており、市民や議会にも説明しておりました。 　処理事業は計画どおりに進んでおり、特段変更はありませんでしたので、特筆する意見はありませんでした。
②　第２期事業における安定器等のプラズマ分解炉においての火災事故の原因及び解決策について、JESCO から具体的な説明は得られましたか。 　また、専門知識を持たない一般市民が納得できるような説明が得られましたか。	②　北九州市では、ＰＣＢ処理施設から外部へＰＣＢ又はダイオキシンが漏れた状況を事故、また、施設内部でＰＣＢがこぼれた場合など、外部への影響がないものをトラブルと認識しており、基本的に事故についてはすべて情報公開することとしております。 　今回の火災はトラブルですが、ＰＣＢを処理する設備が燃えていますので、報道、議会、監視委員会の全てに報告し、市及びＪＥＳＣＯのＨＰにおいて公表しました。 　トラブル発生時の監視委員会への対応については、委員会で説明するだけでなく、まずはＪＥＳＣＯと市が、委員さんのお宅に足を運んで説明し、その後に委員会できちんと総括するという対応を常にしております。
③　JESCO における、処理終了後に PCB 廃棄物を残さないための取り組みについて、北九州市や JESCO 等から監視委員会に情報提供していますか。 　登録漏れにより、処理計画の内に数えられていない重電機器類が数多くあるのではと心配に思います。	③　昨日の委員会において、北九州市ＰＣＢ廃棄物処理計画改訂について報告し、市内のトランスは約７８％の処理が終わり、残りが約２２％であると説明しました。 　計画の改訂に当たって、今年の１月に市内のＰＣＢ廃棄物の保管状況等について調査しましたが、使用中の機器については経済産業省所管ですので、九州経済産業局とも連携し、ＪＥＳＣＯ、市の情報とあわせて、できるだけ実態を把握できるよう努めています。 　今後もＰＣＢ廃棄物の数は増えていくと予想されますが、関係機関の連携による調査と、保管事業者への計画的な立入を実施していきます。
④　ＰＣＢ処理監視委員会において、高濃度廃棄物よりも多数存在すると思われる低濃度 PCB 汚染物等（微量ＰＣＢ汚染廃電気機器等）、現在処理が始まっていないものの検討状況等についての情報提供、意見交換は行われていますか。	④　ＰＣＢ処理監視委員会は、基本的にＪＥＳＣＯが行う事業を監視する委員会です。先ほどＪＥＳＣＯからお話があったように、低濃度のものについては、民間施設での処理の方向が打ち出されており、ＪＥＳＣＯの処理対象でありませんので、監視委員会における監視事項ではないと考えております。

３　環境関連施設視察（１１月１７日（火）9:15～12:30 ）

(1) 北九州市エコタウンセンター

エコタウン事業を生きた教材として活用する環境学習拠点として、また、エコタウン事業を総合的に支援するための中核的支援施設として２００１年６月に開設された施設です。

エコタウン事業の取組を紹介するＤＶＤを視聴し、展示ホールにおいて、環境・リサイクル技術・製品や環境関連企業を紹介するパネル、展示品を見学しました。

○北九州エコタウン事業

エコタウン事業とは、「あらゆる廃棄物を他の産業分野の原料として活用し、最終的に廃棄物をゼロにすること（ゼロ・エミッション）」を目指し、資源循環型社会の構築を図る事業です。

北九州市では、１９９７年から若松区響灘地区を中心に「北九州エコタウン事業」を推進しています。

(2) 西日本オートリサイクル株式会社

エコタウン内の響リサイクル団地に立地している自動車リサイクル施設です。

パーツ部品や金属等の再生資源の回収など、徹底した資源リサイクルを追求した使用済み自動車解体工程について、展示室のパネル及びパーツ毎の展示物により説明を受けた後、実際の処理工程を見学しました。

(3) 光和精鉱株式会社戸畑製造所

北九州市戸畑区に立地している大規模な産業廃棄物処理施設です。

ＰＣＢ廃棄物処理施設から排出されるＰＣＢ処理後の残渣や汚泥を処理しているほか、環境省が実施している微量ＰＣＢ汚染廃電気機器等の焼却実証試験に協力しています。

広大な構内を自動車で移動しながら、車中で廃棄物処理の概要について説明を受け、車窓から施設を見学しました。

・産業廃棄物焼却キルン

報　告　書

氏　名　　西畑　常夫

1　（1）北九州市ＰＣＢ処理監視委員会傍聴 （2）北九州市との意見交換
感想等 (1)-1：各委員が熱心に発言、北九州事業所等、関係者も分かり易い表現で報告していた。又、委員会開催前に今回事案の当該設備を見学する等、双方が課題に対して真摯な姿勢で取り組んでいる様子がうかがえました。 そんな中、ある委員から現場騒音のため説明がよく聞き取れなかったとの発言がありましたが、高齢化も進んでいる折り、説明時にワイヤーレスマイク等を用いると更に効果的なコミニュケーションが図れるものと期待できます。 北九州事業所は、各設備が先発機であり予測困難な事象もあると考えられますが、委員会での意見も指摘追及というよりは提案型の意見が多かったように見受けられました。こんなところにも長年取り組んできているリスクコミュニケーションの表れかと感じたわけです。 (2)-1：事例紹介で活性炭吸着塔のトラブル報告では、詳細な報告書を作成して説明されていましたが、資料数が多いが故に説明についていけない場面もあったように思います。配布資料を少なくしてパワーポイントで説明する方が、衆目を集中させることができるので共通理解も進むのではないかと感じました。
今後の参考になると考えられる事項 ①監視円卓会議について（内容、方法、リスクコミュニケーションのあり方　等） 〇各事業所も同様と考えますが、市民とのリスクコミニュケーションには腐心していると思います。どのような施設や設備においても「絶対」とか「リスクゼロ」ということはないのですが、重篤な環境影響をおこさないためのリスク評価（設計思想の確認や設備診断等）を委員も含めて訓練することでより一層の未然防止が図れるものと考えています。 北九州ＰＣＢ処理監視委員会だより（第 22 号）は、討議内容を含め情報内容がコンパクトに整理され読みやすく分かり易いと思います。 〇収集運搬作業において降水時は、車両への積込みを中止していると聞きました。 当然ながら収集運搬事業者と連携を密にしていると思いますが、保管基準の処理能力の制約を特例として緩和できないものでしょうか。保管基準に多少の余力があれば、収集運搬スケジュール等の調整業務も余裕をもって対応できるのではないかと考えます。 ②その他

２　日本環境安全事業（株）北九州事業所視察
感想等 〇第 2 期設備増設に当たりＴＣＢの分離により液処理の効率化を図る等の設備改善の他は、当初計画に沿った計画で進められたと聞きました。蛍光灯の安定器等、その他物処理は、現在、安定器を主体としてプラズマ溶融分解炉にて高温処理（1400℃）する方法が採用されており小物の処理ではこのような方法が合理的ではないかと感じました。 尚、溶融スラグ等、高温溶融物を取り扱うことから水との接触防止は勿論のこと炉体の耐火物交換時を含めリスクアセスに基づいた運用で事故防止が必要であると考えています。 〇第 2 期施設を見学に行く途中、架空配管である液移送配管が目にとまりました。配管には高さ標識も取り付けられており、通路には、三角コーンも置かれていましたが、紙上での帆立事故の惨状を見るにつけ、結果の重大性を考えると車止め(可搬式)等、２重の事故防止措置も必要かと感じた次第です。
今後の参考になると考えられる事項 ① 今後、北海道事業に取り入れてほしい事項（情報公開の方法、作業従事者等に対する教育訓練　等） 〇規模態様に差はあっても設備の自動車の解体処理と通じる工程があり、それ故、労災も時にはあると思いますが、このような委員会での報告は、処理施設外への環境影響の有無を主体に議論するなど、報告内容にメリハリをつけてはどうでしょうか。 〇実施されていると思いますが、設備の稼働前に設備診断（安全・環境・防災）の視点で設備を良く見て危険予測（リスクアセスメント）を行いトラブル防止を図って頂きたい。不思議なことにトラブルは、そのもの自体の不備より派生して起きることの方が大きいように思います。もしかしたらという標準的な発想でもリスクは低減できると考えます。

３　環境関連施設見学に対する意見、感想等
1）北九州市エコタウンセンター：北九州市エコタウン事業を総括的に把握することができ、産学官の英知を集積したモノづくりの街の全貌を知るうえで必見。 2）西日本オートリサイクル(株)：エコ減税措置が追い風となっている。この７月以降中古車の集荷が急増。1800 台/月で推移。昨年同期の約２倍。２シフトで操業。先行き不透明が懸念。500Ｔ/月の鉄スクラップを八幡製鉄所に回収販売。 その他、自動車回収部品（約２万点所有）を新品価格の 1/2 程度で販売。 2）光和精鉱(株)：国内有数の産業廃棄物処理事業所である。短時間ではありましたが、懇切丁寧な説明で処理概要がよく分かりました。

４　視察全体に対する意見、感想等
環境関連施設の見学等を含め、引率者には大変お世話になりました。 ありがとうございます。北九州市ＰＣＢ処理監視委員会傍聴、北九州市との意見交換会、施設見学、更には、エコタウンセンター・西日本オートリサイクル(株)・光和精鉱(株)での循環型社会への取り組み事例を見て、室蘭地域で一つでも多く具現化されるよう協力していきたいと強く感じました。

報　告　書

氏　名　　西原　羊一

１　（１）北九州市ＰＣＢ処理監視委員会傍聴 　　（２）北九州市との意見交換
感想等 今回の北九州市ＰＣＢ監視委員会では、第２期処理施設事故２件のことと、操業状況を議事にしたが、１４：００～１６：００の２時間では、十分な討議はされなかったと思う。 事故については、委員会前に現場視察をしたのだが、「騒音で説明が聞き取れなかった」など苦情の発言があった。室蘭においても、参考にすべきことと思う。 ＪＥＳＣＯ北九州事業所における意見交換については、室蘭からの事前の照会事項範囲内での意見交換に終始した感がある。もっとも普段の不勉強のせいかもしれぬが、マイクもないところでの発言がよく聞こえず、発言内容に理解できぬものが多く、私個人として非常に残念なことであった。
今後の参考になると考えられる事項 ①監視円卓会議について（内容、方法、リスクコミュニケーションのあり方　等） せめて、監視委員間の交流でもあればと思うが、会議２時間あまりの視察からは、参考になることをといわれても思い至らないが、ただ、視察・意見交換からはリスクコミュニケーションがどのように生かされているのかは不明瞭だった。北九州での二つのリスクコミュニケーション論文が手渡されて読んでみたが、北海道・室蘭市では大いに参考にすべきだと思った。ただし、いかに立派なものができても、それが実際に生かされなければ意味がない。しかし、リスクコミュニケーションの考え方は、多くの人々に広める努力はすべきである。 ②　その他

２　日本環境安全事業（株）北九州事業所視察
感想等 　プラズマ溶融分解法についての事前の学習不足があった。最も、今回の視察の目的は、その問題の理解にあるのだが、早々の火災事故による３ヶ月の運転中止という現実に、改めて先行事業から学ぶことの意味を考えさせられた。今回は設備事故のようだが、リスクコミュニケーションでは事故は避けられないとする考え方がある。しかし、設備にしろ人的なものにしろ、事故はそれを最小限に抑えることが安全の基本だが、開始早々の設備事故には大きな意味があると思う。
今後の参考になると考えられる事項 ①今後、北海道事業に取り入れてほしい事項（情報公開の方法、作業従事者等に対する教育訓練　等） 　情報公開のあり方と作業従事者の教育訓練等に一石を投じるような「リスクコミュニケーション」を作成すべきだ。 ②その他

３　環境関連施設見学に対する意見、感想等

４　視察全体に対する意見、感想等
視察は短時間なので、事前に予備知識をもたないと理解できないところがある。今回のような事前照会方式などは、事前の文書交換等で処理可能だと思えた。それより、実際に先行事業工場見学をとおして率直な意見交換を進めたほうが実があるのではなかろうか。今回の意見交換は照会事項への回答と説明に終始し、結果的に視察の意味が薄れたのではなかったか。

報　告　書

氏　名　　山形　公之

1	（1）北九州市ＰＣＢ処理監視委員会傍聴 （2）北九州市との意見交換

感想等

プラズマ溶融分解設備の火災について

溶融炉の気密性が保たれていなかったこと、排気弁操作の誤り、活性炭吸着塔に可燃物を使用していたこと等によりトラブルに至ったことの説明、対策についての説明を詳細に聞くことができましたが、監視委員会からはその説明の仕方について厳しい意見が多くあったと思います。今回のトラブルについては人的な災害には至らず、また外部への PCB 漏洩はありませんでした。

環境モニタリング結果について

周辺大気、水質、土壌等の測定に加え、ムラサキインコガイ中含有量(PCB,DXNs)の測定を行っており、周辺海域の生物に対する安全を数値化する、貴重なデータであると思います。また粗解体、洗浄室等の換気が集合する換気１箇所からは比較的高い値で DXNs が検出され、予定より早めに活性炭の交換を検討しているとのことでした。

PCB を残さないための取り組みについて

北九州市においては 21 年 5 月に処理計画の改訂を行うなど、PCB 廃棄物の数量把握については常に調査を続けていくとのことでした。

今後の参考になると考えられる事項

①監視円卓会議について（内容、方法、リスクコミュニケーションのあり方　等）

北海道事業においても、今後の１期事業、さらにこれからの 2 期事業においてトラブルが生じる可能性はありますが、先行事業との技術、情報の連携を密に行い、安全に PCB 処理を進めていっていただきたいと感じました。

②その他

プラズマ溶融分解処理では小型の安定器類及び汚染物を受け入れる予定ではありますが、現状では主に１期の処理中に発生した運転廃棄物（防護服、グローブ等）のみ処理が行われています。1 期の処理では高濃度 PCB を含むもののみが処分対象となっていますが、プラズマについては同様の基準は無いとのことでした。

微量 PCB 汚染廃電気機器等については現在環境省で数十 ppm オーダーまで焼却による検証が行われていますが、この先どの程度のオーダーまで処理検証が行われるのか、汚泥や汚染物も焼却処分の対象となってくるのかに留意したいと思います。

処理を予定している PCB 廃棄物の届出数量が増加したことについて、委員会では不安の声が上がっていましたが、数量把握が届出制によることから、今後も処理予定数量の増加は避けれられないと思います。

2　日本環境安全事業（株）北九州事業所視察
感想等 2 期事業として増設された真空加熱分離装置や全国初となるプラズマ溶融分解炉を見学者ルートより見学、説明を受けました。 プラズマ溶融分解炉については溶融分解後に排出されるスラグの性状を安定とするため塩基度調整剤が不可欠であること、汚泥の処理について含水率によってスラグが不安定となるとのことで、これから処理方法の検証が必要とのことでした。（現状では受け入れ不可） あまり長い時間見ることはできませんでしたが、情報公開ルーム、見学者通路とも、北海道の施設と同様にわかりやすかったと思います。
今後の参考になると考えられる事項 ① 今後、北海道事業に取り入れてほしい事項（情報公開の方法、作業従事者等に対する教育訓練　等） これから検証される汚泥等の処理技術が、北海道の 2 期事業に充分に反映されていくか、注視したいと思います。 ②その他

3　環境関連施設見学に対する意見、感想等
多くの大学や研究機関による最終処分、リサイクルの実証研究を行われ、その先のコンビナート内では様々なリサイクル事業が行われている、最先端の環境関連施設である印象を受けました。 光和精鉱㈱においては様々な種類の産業廃棄物を無害化しつつ有価物への転換を行う巨大なプラントを見学できた他、VOC や重金属類の無害化の仕組みについて詳細に説明を受けました。また、同社では微量 PCB 汚染廃電気機器等の焼却処分の実証実験が行われており、絶縁油以外の様々な種類の汚染物処理のイメージを持つことができました。

4　視察全体に対する意見、感想等
限られた時間の中、北九州市 PCB 処理監視委員会の傍聴、JESCO 北九州事業所の視察に加え、微量 PCB 汚染廃電気機器等の焼却実験が行われた光和精鉱㈱を含む、環境関連施設見学や、意見交換等、今後の PCB 処理に関して様々な知見を得ることができました。 今後とも JESCO 北九州事業所の処理状況等に注視し、北海道処理事業監視円卓会議において、大いに参考にしていきたいと思います。

報　告　書

氏　名　　吉田　　隆男

1　（1）北九州市ＰＣＢ処理監視委員会傍聴 　　（2）北九州市との意見交換
感想等 　去る８月８月に発生した第２期施設プラズマ分解炉室内の活性炭吸着塔からの火災トラブルについて、残念ながら説明が聞き取りづらかったため、その原因がよく判りませんでした。その原因究明において、当初設計時の作業手順に対して、トラブル発生時の手順はどうであったかについても、分かりやすく説明していただければと思いました。 　また、配付された資料１の「２　発生原因について」⑤に記載のある、蓋の内側にスポンジ（最終対策では使用不可）を装備した設計根拠などに疑問を持ちました。
今後の参考になると考えられる事項 ①監視円卓会議について（内容、方法、リスクコミュニケーションのあり方　等） 「リスクコミュニケーションについてー北九州市におけるＰＣＢ処理施設立地への取組みを通じてー」　北九州市環境局環境産業政策室主幹　入江隆司（総務省公害等調整委員会広報誌「ちょうせい」第３７号　平成１６年５月号） 　資料として配付された上記論文は、内容が整然とした論旨で、かつ、克明に述べられており、特に「（３）リスクマネジメントについて」の、リスク管理及びリスクコミュニケーションは大変参考になり、勉強させていただきました。 　特に、フェールセーフやセーフティネットは重要であり、円卓会議において、参考にさせていただきたく存じます。特に、７頁の「リスクはゼロだということは言わない」は、リスクを１００％ゼロにすることは…（以下省略）の文章が参考になりました。 ②その他 　しかしながら、「機械は故障する…　人間はミスをする」と言われており、「ヒューマンエラー」を完全になくすることは不可能と思われますが、最近「ヒューマンエラーゼロ対策テキストブック」（中村茂弘著）が発行されており、目下精査中です。ダイオキシンやＰＣＢの漏洩や流出はあってはならないことだけに、「…人間はミスをする」を容認することなく、リスク管理の向上に努めたく思っております。

※上記「ちょうせい」第３７号の論文は、総務省のホームページに掲載されています。
　ＵＲＬ　http://www.soumu.go.jp/kouchoi/substance/chosei/contents/37.htm

パソコン
（収集車輌走行状況等）

2　日本環境安全事業（株）北九州事業所視察
感想等 北九州事業所が立地している“若松地区”は、ＮＳＣ在籍時、業務出張で度々訪問しておりましたが、当視察によって、製鉄所を外側から観察するようにエコタウンを視察し、自然環境に恵まれた、かつ、官営製鉄所発祥地の伝統を継承しているように思えました。 また、ＩＳＯ１４００１の認証取得をされて、責任と権限を明確にした事業展開をなされていると思われます。また、地域住民とのコミュニケーションには、リスクコミュニケーション等を通じて、注意深く対応されていると感じました。
今後の参考になると考えられる事項 ①今後、北海道事業に取り入れてほしい事項（情報公開の方法、作業従事者等に対する教育訓練　等） ＩＳＯ１４００１は、申すまでもなくマネジメントシステム（Ｍ・Ｓ）であり、全てが、効果的な成果が得られるとは断言できません。何故なら、Ｍ・Ｓはツールであり、「使い方」によって、成果が良くも悪くも醸成されるからです。従って、取得することによって、管理・監督者はもとより、作業従事者、協力事業者等に対して、各自の業務の重要性を認識して、作業手順等を遵守する対処が期待されます。 ②その他

3　環境関連施設見学に対する意見、感想等
「使用済み自動車解体リサイクル事業」を視察させていただき、身近で使用されている製品、マイカーの解体を流れ作業で効率的に実施・管理し、パーツ等の販売はバーコードを活用して仕分けを行ない、率直に申し上げて「よくやっている！！」と思います。 リサイクル・リユース等が多くの分野で重要となっており、当該類似の業務展開は、ますます重要になるものと思われます。

4　視察全体に対する意見、感想等